

# 古文書を読む会学習記録

作成日 平成30年 4月29日

開催日	平成30年 4月26日	時間	10:00~12:00
場所	金沢公会堂リハーサル室	受講者	14名
講師	真田 雅行氏	作成者	飯塚 玲子
テーマ	第二学習 艱難実録(函館戦争) ⑧		
概要	<p>会津の領境も破れ、官軍が会津城へ迫って来た。援軍を頼む様会津藩士が塩釜に来た。板倉勝静(君侯)は、榎本武揚(泉州)に面会し、仙台城で篤と評議をする事となった。その時笠井権六は仙台藩に怪しいと疑惑で、斬殺されてしまった。会津の境が破れ、会津城から仙台へ戦いの為人数が入って来た。万之進様の事を一同心配していたが、会津を脱出、米沢へ入るため向ったので、大いに安心した。会津城は、必死の防戦なので30日位は持ち堪えるであろう。但し、米沢が変心し、降伏をしたので、万之進様は米沢に留置き出来ず、米沢は、会津や仙台に降伏を勧めた。仙台は、国論不特定だった。会津の救兵として、彰義隊その他仙台、庄内の手勢が行く事になった。会津の脱兵も仙台へ来るようになり、仙台城下へ引き取った。仙台も降伏と決まった。君侯も、日光宮も、仙台侯に会えなかった。会津にいた商人スネル(会津の家来)がジャクモと仙台城下へ来て米沢藩に生糸を以金子借受ける話があり、君侯が周旋した。会津も破れ、仙台、米沢も降伏、進退を考え、万之進様を白石にて見合う事とした。君侯に一人の力では、思う様にいかないの、降伏する様お話したが、徳川家の為尽力するとの御決心であった。そこで、泉州に直談、泉州と進退を共にし、軍艦に乗込む事を頼んだ。その際、家来は三人までとなった。万之進様は、江戸表へ行く様取計らい、まずの潜居先を松島の石川桜所に相談、松島の陽徳院に頼む事となった。斎藤斎、高田亘、菅野小太夫、瀬下庫太の四人は、病身あるいは年なので御用捨となり、牧野備前守の家来として江戸に帰る事になり、三月頃着いた。南照院も宮様御供で、城下へ参り、君侯とお逢した。宮様より、君侯へ目録等の御贈りがあり、君侯からも差上げる物があつた。宮様は、君侯に度々ご相談した。宮様へも仙台から勧めがあり、終にはご謝罪になられた。南照院は身分を大いに心配して、桜所へ頼んだ。会津藩の神尾鉄之助の願で、刀三本(その内二本は旧幕府より拝領)を、君侯から会津侯へ御譲りになり、スネル兄弟、ジャクモへ下された。万之進様は、白石より仙台に寄らず、脇道を通り塩釜へ一泊。</p>		
次回予定	平成30年 5月10日 10:00~12:00 於:金沢公会堂リハーサル室 第一学習 野嶋浦 鈴木家文書 ⑤		